は、意

故事成語

14

壁から躍り出て、天に昇ってし はく頼んで瞳を描き入れさせた ところ、彼の言葉どおりに、竜が ところ、彼の言葉どおりに、竜が ところ、彼の言葉どおりに、竜が

壁から躍り出て、 は瞳が入っていなかった。彼は、に四匹の竜を描いたが、その竜に

武帝の命を受けて安楽寺の壁息の有名な画家である張僧繇 孫春 子秋 左 氏 氏 S.C. 500 春秋 戦国 淮南子 前漢 新 後漢 三国 西晋 東晋 500 南北朝

歴代名画記

「点だが 画カガ レ ン 陵 竜 去。 乗 中 也等 妄 武3 匹 崇力 竜 不ず 点。 之^元,8 眼 ぎたり 睛り 毎 與學 者 雷

5

の画家。 張僧繇 生没年未詳。 南北朝時代の梁

3 武帝 <mark>2</mark> 呉中 る武帝 在位五○二年~五四九の代皇帝。姓は蕭、名は活。 現在の江蘇省蘇州 九年。 梁の

6 眼睛 5 金陵 **4** 崇飾 梁の都。 立派に装飾する。 瞳。 現在の江蘇省南京市。

7 妄誕 でたらめ。

8須臾 問❶「固請」点」之。」のあとに、 うなことが行われたか。 少しの間。 自分の描いた四匹の竜のうちの たちまち。 どのよ

一二匹に、

瞳を描き入れた

(歴代名画記)

張僧繇はどのような画家であったか、 話し合ってみよう。略。(指導書参照)

語句と表現

みよう。 即 (14:3) 以外で「すなはチ」と読む字を調べ、 意味の違 いをまとめて

「画竜点睛を欠く」は、 たいよく るが 、最後の仕上げが不十分であるため、全体が不り現在どのような意味で使われているか、 全体が不完全になってしまっている。 調べてみよう。

ゆるく 上を受けて そのまま。

とりもなおさず。そのまま。すぐに。また「則」と同様にも用いられる。「便」その結果を表す。「~レバ則チ」と訓読することが多く、「レバ則」と呼ばれる。それは。前後が「述語」にはさまれる場合、前の句が原因・前提を、後の句が~すればすなわち。仮定や条件を受け入れて結果を述べる。(主格をうけて)

便

③ 即

廼 • そこで。しかるに。かは「即」よりやや軽い。 味が重い。 「乃」は心理的屈折、 即は、 なんとまあ。「乃」:即刻・即座の「即」。 抵抗感などを経ての接続を表す場合に用いらなんとまあ。「乃」は、「即」と比べて、より意

④ 乃 れる。

…そのたびごとに。…「則・乃」と同じ。

• 句 命》 [A] [使役] B A に命令 して围させる。

*訓読で注意する語

即 以為

十巻。張彦遠の著。 論、画家の伝記などをまとめる。 絵画の技法や理

◇張彦遠

生没年未詳。 画家。 字は愛賓。 唐代末期の